

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 ようすを考えて読もう 「お手紙」

2 指導観

こんな子どもだから

- 日頃から音読活動に意欲的に取り組み、繰り返し読むことで書かれている内容をうまく把握することができるようになってきている。また、「～が」「～は」という主語に気をつけて文中から人物がしたことを見つけ、順序よくつないであらすじを捉えたり、叙述を手がかりに、人物がおかれている立場に立ち止まり、人物の気持ちを考えたりする力を伸ばしてきている。
- 「ふきのとう」では、ふきのとうが芽を出すために、雪や竹やぶ、お日さま、春風がみんなつながって春になっていったおもしろさを楽しみながら読んできている。また、「スイミー」では、スイミーの気持ちの変化を読み取るとともに、スイミーの知恵や協力する大切さに気付き、感動しながら読むことができた。

こんな単元でこんな読みの力を

- 本教材は、お手紙をもらえなくて悲しんでいるがまくんと、そんながまくんを喜ばせてあげようとするかえるくんの心のふれあいをユーモラスに描いた物語である。話のほとんどがふたりの会話で進行しており、音読を生かしてふたりの気持ちを考えることができる。また、挿し絵の人物の表情などからふたりの心の動きを読み取りやすくなっており、叙述とつないでふたりの気持ちを考えやすい構成になっている。
- 題名と冒頭から「がまくんはどうしてそんなにお手紙がほしいのかな」という読みのめあてを持たせ、挿し絵をもとに、場面ごとに人物がしたことを押さえながらあらすじを捉えた上で「親友がほしかったから」という読みのめあての答えを導き出せるようにしたい。また、読み確かめでは、「がまくんとかえるくんは親友らしいことをしているのかな」という視点で読ませていく。相手のことを考えていることが分かる叙述に着目し、音読や動作化を通して人物の姿や様子を捉え、その気持ちを想像できるようにしたい。
- かなしい気分からとてもしあわせな気持ちになるまでのがまくんとかえるくんの気持ちに共感しながら言動を追っていく読み方を身に付け、ふたりの「心のふれあい」を味わうことができるようにしたい。また、同じシリーズの話を読ませ、さらにふたりの関わりのおもしろさに浸らせていきたい。

中学校での課題を受けて

■ 改善の観点（A-1）

- 「とび出しました」「見ました」「のぞきました」というかえるくんの行動を表す言葉やかえるくんとがまくんの会話に着目させ、音読や動作化を通してふたりの姿や様子を捉え、その気持ちを想像させる。
- 挿し絵と言葉をつなぎながら、鉛筆対談を通して、お手紙が着くまでの四日間、ふたりがどのような様子や気持ちで待っていたのかを想像させる。

■ 改善の観点（B-1）

- 題名「お手紙」と冒頭をつないで、お手紙が来ないことでとてもふしあわせな気持ちになっているがまくんと、それを知ってかなしい気分になっているかえるくんの様子を捉えさせ、それでもお手紙を待っている姿から、「お手紙」をもらうことはがまくんにとってどんな意味をもつのかを考えさせて読みのめあてを導き出す。
- 場面を順序よく読み取りあらすじを捉えられるワークシートを工夫し、かなしい気分のがまくんが、お手紙をもらっていないのにともしあわせな気持ちになったわけを考えさせる。

■ 改善の観点（C-1）

- ふたりは親友らしいことをしていたかという視点をもって毎時間の学習を振り返り、ふたりの様子や気持ちについて読み深めたことをお家の人への手紙として書かせる。

こんな子どもに（単元目標）

- かなしい気分でもしを下ろしてお手紙が来るのを待っていたがまくんとかえるくんがとてもしあわせな気持ちになるまでの話のあらすじを捉え、挿し絵とふたりの言動をつなぎぐとともに、音読や動作化を通してふたりの様子を捉え、気持ちを読み深めることができるようにする。
- がまくんにお手紙を書いたかえるくんの気持ちと、それを知ったがまくんの気持ちに共感しながら読み、ふたりの「心のふれあい」のあたたかさを味わうことができるようにする。

中学校へどうつながっていくのか

- 似た言葉の違いや空所に着目し、人物の姿や様子を具体的に捉え、その気持ちを想像して読ませしていくことは、中学年の「情景や人物の姿を思い描きながら読むこと」、高学年の「心情や場面についての描写を味わいながら読むこと」へ、さらに、中1の「文脈の中における語句の意味を具体的なイメージをつくりながら正確に捉える」という学習へとつながっていく。

3 学習計画 (全15時間)

次時	学習のねらい	主な学習活動と指導上の留意点
めあてをもつ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題名「お手紙」と冒頭をつないで、読みのめあてをつくる。 ○ 題名「お手紙」について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お手紙をもらった時の気持ちを振り返らせる。 ○ 題名で考えたことと冒頭をつないで読み、挿し絵と叙述をつないで、がまくんの様子や気持ちを考える。 ○ 題名と冒頭をつないで読みのめあてをつくる。 (B-1)「お手紙」をもらうことは、がまくんにとってどんな意味をもつのかを考える。 <p><読みのめあて> お手紙をまっけているとふしあわせな気持ちになるのに、がまくんはどうしてそんなにお手紙がほしいのかな。</p>
	2・3・4・5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話のあらすじを捉え、読みのめあての答えを考える。 ○ 全文を読み、場面のまとまりやあらすじを捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各場面の挿し絵を見て人物がしたことを書き、話のあらすじを捉えさせる。 ○ がまくんやかえるくんの様子や気持ちの変化を考えながら、読みのめあての答えをまとめる。 ○ 読みのめあての答えについて話し合う。 (B-1) がまくんはお手紙をもらっていないのにしあわせな気持ちになっていることに気づき、そのわけを考える。 <p><読みの方向> がまくんは、お手紙を書いてくれるような親友がほしかった。</p>
計画を立てる	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み確かめの計画を立てる。 ○ 読みのめあての答えについて確かめることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お手紙の内容のどんなところが「いいお手紙」なのかを考えさせる。 ・ がまくんがかえるくんに、かえるくんががまくんに親友らしいことをしているところを話し合わせ、各場面で詳しく読むことを捉えさせる。 <p><読み確かめること> がまくんとかえるくんは親友らしいことをしているのかな。</p>
	7・8・9・10・11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画を基に場面ごとに読み深め確かめる。 ○ 学習計画を基に、場面ごとにながまくんとかえるくんの様子や気持ちを読み深め、親友らしいことをしているかどうかを確かめる。 (A-1) かえるくんの行動を表す言葉やかえるくんとがまくんの会話に着目させ、音読や動作化を通してふたりの姿や様子をとらえ、その気持ちを想像させる。 【がまくんを思うかえるくんについて】 ・ 大急ぎで家に帰り手紙を書いてかたつむりに頼んだかえるくんの様子や気持ち ・ 何度も窓からのぞくかえるくんの様子や気持ち ・ お手紙を書いたことをがまくんに教えたかえるくんの様子や気持ち 【かえるくんを思うがまくんについて】 ・ お手紙の話を聞いたがまくんの様子や気持ち (A-1) 挿し絵と言葉をつなぎながら、鉛筆対談をすることを通して、お手紙が着くまでの四日間、ふたりがどのような様子や気持ちで待っていたのかを想像させる。 【お互いを思うかえるくんとがまくんについて】 ・ しあわせな気持ちでお手紙を待つふたりの様子や気持ち ・ お手紙が届いた時のふたりの様子や気持ち (C-1) ふたりは親友らしいことをしていたかという視点をもって毎時間の学習を振り返り、ふたりの様子や気持ちについて読み深めたことをお家の人への手紙として書かせる。
まとめ	12・13・14・15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、読みのまとめをする。 ○ 読みのめあての答えについて振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間読み確かめてきたことを振り返り、がまくんとかえるくんの親友らしさや心のふれあいをまとめさせる。 ○ ローベルのかえるくんシリーズの他作品を読み、さらにがまくんとかえるくんの親友らしさを読み味わう。

第7時

4 本時 (7/15)

5 本時の目標

- 大いそぎで家に帰って手紙を書き、がまくんの家へ戻るまでのかえるくんが、がまくんのことを思いやりの心で考えている様子や気持ちを想像しながら読み深めることができる。

6 本時学習における授業改善の観点

- (A-1) 場面の様子に気づき、想像を広げながら書かれている通りに読む力
 - ・ 「大いそぎで家へ帰りました。」「とび出しました。」という叙述に着目し、動作化させることにより、かえるくんの様子を捉え、その気持ちを想像させる。

7 本時指導についての基本的な考え方

- 本時は、かえるくんが大いそぎで家へ帰り、お手紙を書く場面において、かえるくんの様子や気持ちを読み深める学習である。かえるくんが、家へ帰り、手紙を書き、かたつむり君に頼むのは、がまくんのことを思いやりの心で考えてした行動であることを読み取らせたい。このことは、「想像を広げながら書かれている通りに読む力」を身に付けることになり、学年のねらいを達成する上で価値がある。
- 指導にあたっては、まず本時のめあてである「大いそぎで家へ帰って手紙を書き、がまくんの家へもどったかえるくんの気持ちやようすをくわしく読もう。」を確認する。次に、本時場面を音読してかえるくんがしたことを確かめさせる。そして、「おおいそぎで家へかえりました。」「紙に何か書きました。」「家からとび出しました。」「おねがいで、このお手紙をがまくんの家へもって行って、ゆうびんうけに入れてきてくれないかい。」「がまくんの家へもどりました。」の叙述に着目させ、音読や動作化をさせることにより、かえるくんの行動や様子を捉えさせる。そして、かえるくんががまくんの家へもどるときの気持ちを考えさせる。最後に、めあてに返り、かえるくんがしたことやその様子、がまくんに対する気持ちについて詳しく分かったことを、家の人への手紙として書きまとめさせる。

8 板書図

ようすを考えて読もう
お手紙
学しゅうのめあて
アーノルドローベル

大いそぎで家へかえり手紙を書き、がまくんの家へもどったかえるくんの気持ちやようすをくわしく読もう。



すると、かえるくんが言いました。
「ぼく、もう家へかえらなくちゃ、がまくん、しなくちやいけないことが、あるんだ。」
家へ帰りました。

かえるくんは、大いそぎで家へ帰りました。
えんぴつと紙を見つけてきました。
紙に何か書きました。
紙をふうとうに入れました
ふうとうにこう書きました。
「がまかえるくんへ」

出ました。

かえるくんは、家からとび出しました。
早くお手紙を出したい。
がまくんをあんしんさせたい。
「おねがいで、このお手紙をがまくんの家へもって行ってゆうびんうけに入れてきてくれないかい。」
かたつむりくんはたのむとほんとうのお手紙みたい。

それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。
お手紙をもらいよるこぶがまくんを見た
きょうの学しゅうで
きょうのかえるくんはね



9 展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p style="margin-left: 20px;">学習のめあて _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大いそぎで家へ帰って手紙を書き、がまくんの家へもどったかえるくんの気持ちやようすをくわしく読もう。</p> </div> <p>2 本時学習の場面を音読する。</p> <p>3 かえるくんがしたことを確かめ、お手紙を書いている時のかえるくんの様子を考える。</p> <p>(1) かえるくんがしたことを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎで家へ帰りました。 ・えんぴつと紙を見つけました。 ・紙に何か書きました。 ・紙をふうとうに入れました。 ・ふうとうにこう書きました。 ・家からとび出しました。 ・がまくんの家へもどりました。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(A-1)</p> <p>(2) どんなふうにしたのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家へ帰る時 ・お手紙を書いている時 ・家からとび出した時 ・がまくんの家へもどった時 </div> <p>4 かえるくんががまくんの家へ帰るときの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈予想される子どもの反応〉</p> <p>がまくんはお手紙をもらおうとよろこぶだろうな。がまくんに早く会ってよろこぶところがみたいな。かたつむりくんはちゃんと、とどけてくれるかな。</p> </div> <p>5 本時学習のまとめと次時学習の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんがお手紙を書いたことと、そのときの気持ちをお家の人へお話するという形式でまとめる。 	<p>○学習計画から本時学習のめあてを確認する。</p> <p>○ かえるくんの様子を考えながら音読をさせる。</p> <p>○ したことの順序通りに板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎで帰り、お手紙を書き、かたつむりくんにたのみ、がまくんの家へもどるまでを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(A-1)</p> <p>○ どんなふうになっているのかが分かるように動作化させ、「大いそぎで」「とび出しました」という叙述とつないで、とても急いでいることを捉えさせる。</p> <p>○ 挿し絵の表情から、とても真剣にお手紙を書いていることを捉えさせる。</p> </div> <p>○ とても急いでいたかえるくんの様子をつないで、がまくんの家へもどるときのかえるくんの気持ちを考えさせ、吹き出しに書かせる</p> <p>○ 吹き出しに書かせた事を交流させ、かえるくんががまくんを思いやる気持ちに気付かせる。</p> <p>○ 板書をたどり、かえる君がしたことや気持ちについて詳しくなったことをお家の人への手紙として書かせる。</p>

第8時

4 本時 (8/15)

5 本時の目標

- お手紙が来るのを待って何度もまどからのぞくかえるくんの様子を、「見ました」と「のぞきました」の意味の違いに着目して考え、会話文の音読をもとに、かえるくんががまくんを早く喜ばせたい気持ちを読み深めることができる。

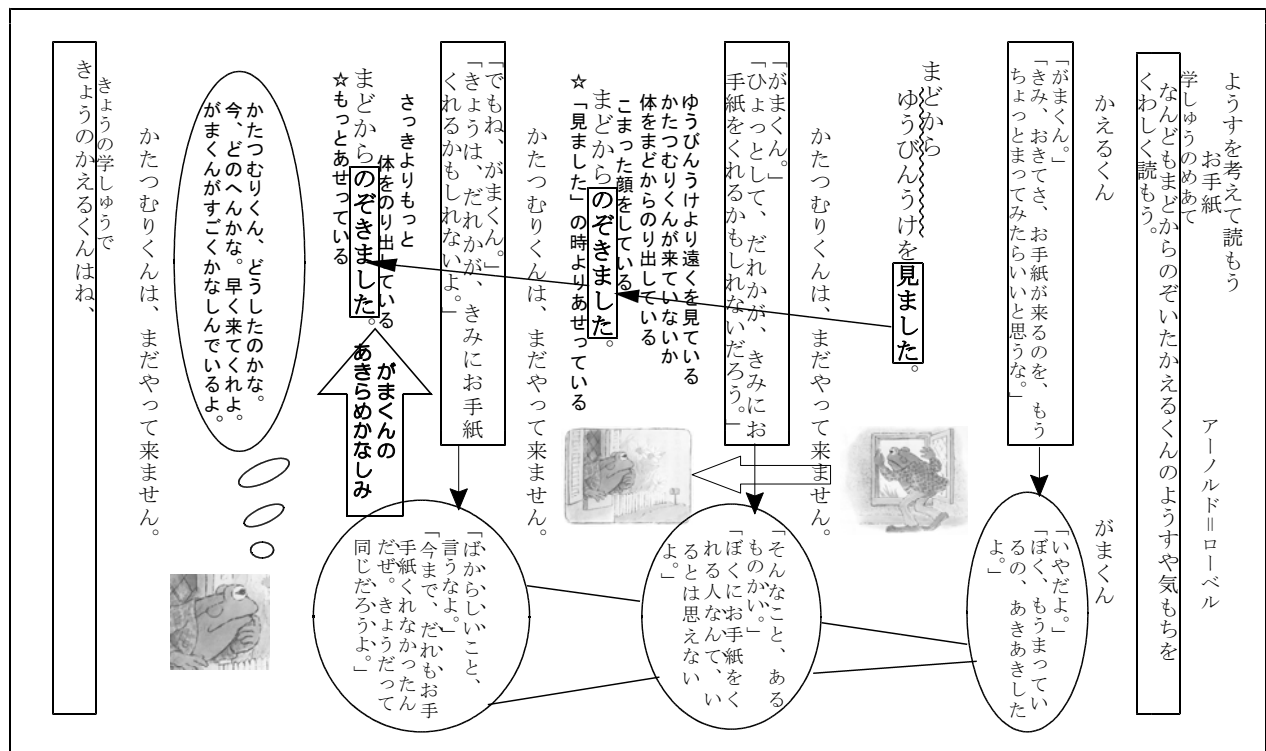
6 本時学習における授業改善の観点

- (A-1) 場面の様子に気づき、想像を広げながら書かれている通りに読む力
 - ・ 「見ました」「のぞきました」という叙述やかえるくんとがまくんの会話に着目させ、音読を通してふたりの姿や様子を捉え、その気持ちを想像させる。

7 本時指導についての基本的な考え方

- 本時は、かえるくんがまどから何度ものぞく場面において、かえるくんの様子や気持ちを読み深める学習である。がまくんがだんだん投げやりな様子になっていくのに対し、かえるくんは、それを見てがまくんを早く喜ばせたいという気持ちが高まっていることを読み取らせていく。ふたりの会話文を音読することを通して、がまくんの様子を捉え、それに応えているかえるくんの気持ちを想像して話したり書いたりしながら読み深めたい。そして、次時の学習でふたりの気持ちが通じ合ううれしさへとつなげていきたい。このことは、場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像する経験となり、「想像を広げながら読む」という学年のねらいを達成する上で価値がある。
- 指導にあたっては、まず、学習計画から、本時は「かえるくんはどんなふうにかえるくんがしたことを確かめさせるのか」を考えることを確認する。次に、本時場面を音読してかえるくんがしたことを確かめさせる。そして、「見ました」「のぞきました」に着目して、その時のかえるくんの様子や気持ちを考えさせていく。そのために、二枚の挿し絵を提示して、「見ました」と「のぞきました」の様子の違いを捉えさせ、どうしてそう変わったのかを問うことで、がまくんの様子に原因があることに気付かせる。その後、音読を通しながら、がまくんがだんだん投げやりになっていることを確かめ、がまくんに強い口調で言われながらもまどからのぞくかえるくんの気持ちを吹き出しに書かせ、交流させる。最後に、めあてに返り、かえるくんがしたことやその様子、がまくんに対する気持ちについて詳しく分かったことを、家の人への手紙として書きまとめさせる。

8 板書図



9 展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p>学習のめあて _____ なんどもまどからのぞいたかえるくんのようにすや気持ちをくわしく読もう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の足跡から、前時場面のかえるくんの様子や気持ちを想起させる。 ○ 学習計画から本時学習のめあてを確認する。
<p>2 本時学習の場면을音読する。</p> <p>3 かえるくんがしたことを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何度もまどからのぞいている。 <p>4 かえるくんの様子や気持ちを考える。</p> <p>(1) 二枚の挿し絵から、まどから郵便受けを見た時とまどからのぞいた時のかえるくんの様子の違いを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まどからゆうびんうけを見ました」の時 ゆうびんうけを見ている。 ・ 「まどからのぞきました」の時 ゆうびんうけより遠くを見ている。 体をまどからのり出している。 (かたつむりくんが来ていないかを見ている。) こまった顔をしている。 ☆ 「見ました」の時よりあせている ・ 「まどからのぞきました」の時 さっきよりもっと体をのり出している ☆ もっとあせている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ がまくんとかえるくんに分かれて音読させ、かえるくんが言ったことやしたことを押さえる。 ○ かえるくんがしたことの順序が分かるように板書する。 ○ かえるくんの二枚の挿し絵から、心配そうに窓から郵便受けを見たりのぞいたりしていることを確かめ、二枚を比べて手の位置や体の乗り出し方、視線などの違いに気付かせ、かえるくんがだんだん焦ってきている様子を捉えさせる。 ○ かえるくんが二回目にのぞいた時の様子を想像させ、一回目の様子と比べてどう変わったか考えさせる。 ○ かえるくんの様子が変わってきているわけを問い、がまくんが手紙を待つのにあきあきしてますますいやになっているからであることを、叙述や挿し絵から捉えさせる。
<p>(A-1)</p> <p>(2) がまくんの会話文を音読してがまくんの様子を捉え、それとつないでかえるくんの気持ちを想像する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ 「いやだよ」「あきあきしたよ」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・ 「そんなことあるものかい」 「お手紙をくれる人なんているとは思えないよ」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・ 「ばからしいこと」 「今までだれも」 「きょうだって同じだろうよ」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 150px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px auto;"> <p>がまくんの あきらめ悲しみが だんだん 強くなっている</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まどからのぞくかえるくんの気持ち <small>(予想される子どもの反応)</small></p> <p>かたつむりくん、どうしたのかな。 今、どのへんかな。早く来てくれよ。 がまくんがすごくかなしんでいるよ。</p> </div>	<p>(A-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がまくんの会話文を口調を工夫して音読させ、がまくんがだんだん投げやりになっている様子を捉えさせる。 ○ あきらめずに手紙を待つように勧めているのに、言うことを聞いてくれず強い口調で言われる体験をさせて、かえるくんの気持ちに寄り添わせるために、がまくんとかえるくんに分かれて交代しながら音読をさせる。 ○ かえるくんがどんな気持ちでまどからのぞいたのかを考えて吹き出しに書かせる。 ○ 吹き出しに書いたことを出し合い、そう考えたわけを交流させる。 ○ がまくんに強い口調で言われて悲しくなっていることやかたつむりくんがまだ来なくて心配している気持ちも受け入れ、それでもお手紙を待っているかえるくんの姿に気付かせる。
<p>5 本時学習のまとめと次時学習の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 板書をたどり、かえるくんがしたことやその様子、気持ちについてくわしくなったことを、家の人への手紙として書かせる。 ○ 次時は、お手紙のことをかえるくんから聞いたがまくんの様子や気持ちについてくわしく読むことを確認する。

第9時

4 本時 (9/15)

5 本時の目標

- かえるくんがお手紙を出してくれたことを知ったがまくんが、お手紙の内容を聞いて大切な親友が近くにいたことに気付いた喜びを読み深めることができる。

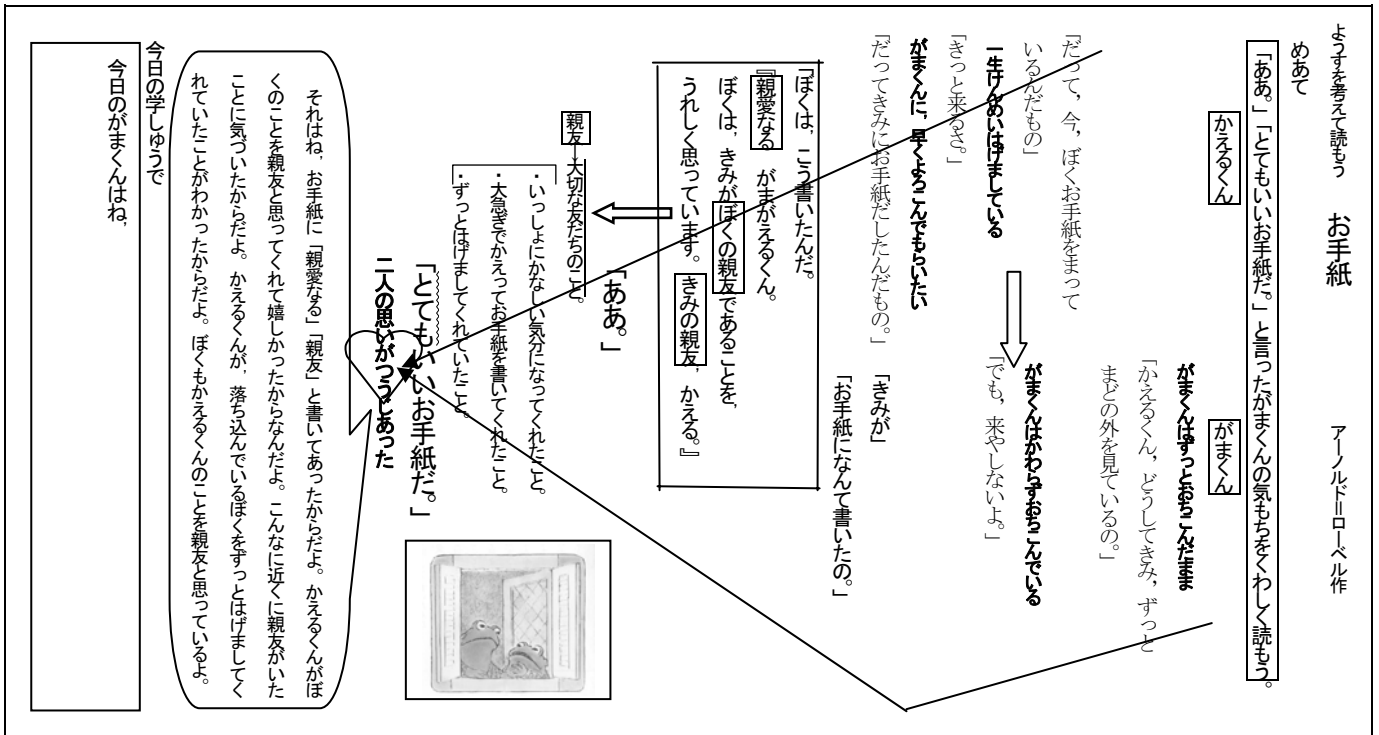
6 本時学習における授業改善の観点

- (A-1) 場面の様子に気付き、想像を広げながら書かれている通りに読む力
 - ・ 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」とがまくんが思ったお手紙の内容に着目させ、その言葉に込めたがまくんの気持ちを、音読させたり吹き出しに書かせたりすることを通して読み取らせる。

7 本時指導についての基本的な考え方

- 本時は、かえるくんがお手紙を出してくれたことを聞いた、がまくんの気持ちを読み深めていく学習である。会話文を音読したり、その時の気持ちを吹き出しに書かせたりすることを通して、かえるくんという大切な親友が近くにいたことに気付いたがまくんの喜びを読み取らせていきたい。このことは、「想像を広げながら書かれている通りに読む力」を身に付けることとなり、学年のねらいを達成する上で価値がある。
- 指導にあたっては、まず学習計画から、本時のめあて『「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの様子や気持ちをくわしく読もう。』を確認する。次に、かえるくんががまくんにお手紙を書いたことを伝えてしまったわけを考えさせ、かえるくんががまくんを思う気持ちを捉えさせる。そして、「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」の「ああ。」をがまくんになりきって音読させ、がまくんの様子を想像させる。また、「とてもいいお手紙だ。」の「とてもいい」とがまくんが思ったお手紙の内容から「親友」という言葉に着目させ、かえるくんの行動が、がまくんにとって親友らしかったか振り返らせていく。その後、がまくんが「とてもいいお手紙だ。」と言ったわけを吹き出しに書かせることで、大切な親友が近くにいたことに気付き喜びに浸るがまくんの気持ちを読み取らせていく。本時学習のまとめでは、今日の学習で読み深めたことを家の人への手紙として書きまとめさせる。

8 板書図



9 展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p>学習のめあて _____</p> <p>「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんのようなすや気持ちをくわしく読もう。</p>	<p>○ 学習の足跡から、前時場面のかえるくんの様子や気持ちを想起させる。</p> <p>○ 学習計画から本時学習のめあてを確認する。</p>
<p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 かえるくんが、がまくんにお手紙を出したことを伝えてしまったわけを考える。</p> <p style="text-align: center;">(予想される子どもの反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち込んでいるがまくんを早く元気にしたいから。 <p>4 かえるくんからお手紙の内容を聞いたがまくんの様子や気持ちについて考える。</p>	<p>○ お手紙が来なくて落ち込んでいるがまくんをなんとかして励ましたいと思っているかえるくんの様子に気付かせる。</p>
<p>(A-2-1)</p> <p>(1) 「ああ。」をがまくんになって音読し、その時のがまくんの様子を考える。</p> <p style="text-align: center;">(予想される子どもの反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感激・感動の「ああ。」→うれしい <p>(2) 「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの「とてもいい」と思ったお手紙の内容(言葉)について考える。</p> <p>(3) 「とてもいいお手紙だ。」とがまくんが言ったわけを吹き出しに書く。</p> <p style="text-align: center;">(予想される子どもの反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手紙の内容に親愛なる、親友と書いてくれたこと。 ・ かえるくんが親友と思ってくれてうれしいこと。 ・ かえるくんが急いで家に帰ったのは、自分にお手紙を書くためだったことがわかったこと。 ・ 落ち込んでいた時に一生懸命励ましてくれたことがわかったこと。 ・ 近くに親友がいたことに気付いたこと。 	<p>(A-1)</p> <p>○ 「ああ。」の会話文をがまくんになりきって音読させ、どんなふうに行ったのか、なぜそのように言ったのかを考えさせる。</p> <p>○ 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と「ああ。とてもいいお手紙だ。」を比べ、「ああ。」の後に間があることに気付かせる。</p> <p>○ お手紙の内容(言葉)の「親愛なる」「ぼくの親友」「きみの親友」を押さえ、親友とはどのような友達のことか考えさせ、かえるくんのこれまでの行動が親友らしかった振り返らせる。</p> <p>○ 「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの気持ちを、「それはね～」と書き出しを与え、吹き出しに書かせる。</p> <p>○ 大切な親友が近くにいたことに気付いたがまくんの喜びを捉えさせる。</p>
<p>5 本時学習のまとめと次時学習の確認をする。</p>	<p>○ 板書をたどり、がまくんがいったことやその様子、気持ちについてくわしくなったことを、家の人への手紙として書かせる。</p> <p>○ 次時は、とても幸せな気持ちでお手紙を待つふたりの様子や気持ちについてくわしく読むことを確認する。</p>